

迎古夢旅 4748 : 比良八荒は春の話だが 133

比良おろし、滋賀県の比良山地東麓に吹く**局地風**のこと。

特に毎年3月26日に行われる天台宗の行事「比良八講」の前後に吹くものを、**比良八講・荒れじまい**、また、**比良八荒**と呼び、本格的な春の訪れを告げる風とされている。

これは、琵琶湖と比良山の**温度差で、突風が生じる自然現象**で、寒気がぶり返し、本格的な春がやってくるとの、言い伝えで、祖母から耳にしていた。

下記の画像は、今、秋の10月15日の景観だが、ふと、思い出した次第。



確かなことは、定かでない。何しろ、何度も訪ねているが、車でなく、ママチャリ。肌に強い風を感じる。私には、スイスイというわけには行かない。

そんなわけで、画像記録。**本格的な秋冬の予兆かもしれない**と思った。

10月15日でなく、10月23日には**木枯らし1号**との**報道**。賤が岳の好天気とは違って、珍しいご対面というか、出会いだったので印象に残った。

自然は、厳しさと優しさの両面を持っていると、再確認。

